

「JENESYS2017」香港・澳門（マカオ）高校生訪日団（招へいプログラム）
（対象国：中国）

1. プログラム概要

香港特別行政区政府教育局及び澳門（マカオ）特別行政区政府教育暨青年局が派遣した香港・澳門高校生訪日団計 101 名が、12 月 10 日から 12 月 18 日までの 8 泊 9 日の日程で来日しました。

（香港団団長：陳婉玲 聖士提反堂中学 校長、澳門団団長：鄭杰釗 勞工子弟学校 校長）

一行は、東京のほか、千葉・神奈川・奈良・京都を訪問し、各地の高校を訪問し、日本の高校生との相互理解・交流を深めました。また、ホームステイや和風温泉旅館宿泊体験、地方の歴史・自然・文化等の見学などを通じ、日本人の温かさや日本の魅力を体感しました。香港・澳門高校生は、本事業を通じ、日本人の考え方に触れ、様々な角度から日本理解を深めることができ、見聞したことや体験したことを自身の SNS 等を通じて発信しました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、各団の代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都、奈良県、京都府（全員）、
千葉県（香港団 41 名）、神奈川県（澳門団 30 名）

2. 日程

12 月 10 日（日）

羽田空港から入国

12 月 11 日（月）

【オリエンテーション】

【講義】日本の伝統美術とそのデジタル復元に関する講義

【見学】浅草寺、東京スカイツリー

【歓迎会】

12 月 12 日（火）

【学校交流】千葉県立松戸国際高等学校（香港団 1 号車）

東京都立翔陽高等学校（香港団 2 号車）

神奈川県立小田原高等学校（澳門団）

【見学】東京都水道歴史館（香港団 2 号車）

12 月 13 日（水）

奈良県へ移動

【ホームステイ】奈良県飛鳥地域

12月14日(木)～12月16日(土) ※香港団、澳門団に分かれプログラムを実施

●共通プログラム：奈良県

【ホームステイ】奈良県飛鳥地域

【見学】東大寺

●香港団：京都府

【学校交流】京都府立北稜高等学校（香港団1号車）

京都府立山城高等学校（香港団2号車）

【体験】手描き友禅、温泉旅館宿泊

【見学】清水寺、嵐山、京エコロジーセンター、京都国際マンガミュージアム

●澳門団：奈良県、京都府

【学校交流】奈良県立登美ヶ丘高等学校

【体験】にぎり墨、温泉旅館宿泊

【見学】春日大社、薬師寺、奈良市防災センター、京都鉄道博物館、清水寺

12月17日(日)

東京都へ移動、商業施設視察

【歓送報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

12月18日(月)

羽田空港から出国

3. プログラム記録写真

<共通>



12月11日 日本の伝統美術とデジタル復元に関する講義（中央・講師 小林美術科学 小林泰三氏）（東京都）



12月11日 歓迎会 日本高校生と交流（東京都）



12月11日 歓迎会 香港高校生によるパフォーマンス (東京都)



12月14日 飛鳥地域ホームステイ (奈良県)



12月14日 東大寺見学 (奈良県)



12月17日 歓送報告会 団員による感想・アクション・プラン発表 (東京都)

<香港団>



12月12日 千葉県立松戸国際高等学校訪問・交流 (千葉県)



12月12日 東京都立翔陽高等学校訪問・交流 (東京都)



12月15日 京都府立北稜高等学校訪問・交流
(京都府)



12月15日 京都府立山城高等学校訪問・交流
(京都府)



12月16日 手描き友禅体験 (京都府)



12月16日 京エコロジーセンター視察
(京都府)

〈澳門団〉



12月12日 神奈川県立小田原高等学校訪問・
交流 (神奈川県)



12月14日 にぎり墨体験 (奈良県)



12月15日 奈良県立登美ヶ丘高等学校訪問・交流（奈良県）



12月16日 奈良市防災センター視察（奈良県）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆香港団

○学校訪問で、私は日本の学生の熱意を感じた。松戸国際高校でも北稜高校でも、学生たちの私たちにに対する態度はとても熱心だった。中でも班長は、私たちに替わって弁当を持って来てくれる等、何かと面倒をみてくれた。校内では、日本人の礼儀正しさと人に接する際の礼節も目にした。例えば2校とも来客用に下駄箱が備えられていたし、学生は先生に会うとお辞儀をして挨拶し、師を尊び、道を重んじる精神を体現していた。食事の前には周りの学生に挨拶をし、別れ際には手を振って見送ってくれた。彼らのそうした小さな一つ一つの行動から、尊重されていると感じたし、日本人が礼節を守り重んじていることを実感した。このような精神と、中国が提唱する自重し人を敬う礼儀文化の概念には似たところがある。だが、残念なことに現実の中国・香港では、他人を尊重することは少ない。特に師を敬う風潮は稀薄だ。他には、学校交流で参加した書道のクラスがとても印象深かった。日本の学生が練習していた隷書や草書等の字体は、私が書いたものよりずっと美しく、日本が文化を重視し伝承していることがよく分かった。書道は日本では広く伝わり、中国では逆に徐々に衰微している。伝統文化を守るために自分に何かできることはないかと考えさせられた。だから、私はこれからも引き続き中国音楽を習い、茶道等も学んでみて、自分の文化知識を深めようと思う。

○学校訪問では、二つの高校を訪問し、楽しい時を過ごした。2校での交流の中で、私は香港と日本の違う点と同じ点に気付いた。まず学生に関しては、日本の学生は香港の学生より熱意があると思った。例えば、学校を訪問中のこと、日本の学生の英語の学習時間は香港の学生より少ないが、彼らはそれでも一生懸命英語を使って私たちと交流しようとしていた。上手く伝わらない時には、様々なジェスチャーまで使って、何とか私たちと交流しようと頑張っていた。私たちはそのことにとても感謝した。香港の学生はクラブ活動や環境保護をあまり重視していないことにも気付いた。日本の学生は、放課後、皆積極的に様々なクラブ活動に参加していて、学校はとても活発な雰囲気だった。また日本の学生は環境保護やリサイクルをとても重視していた。彼らのお弁当はとても小さく、食べ物を無駄にしないためにとても良い食習慣だと思った。ごみも積極的に分別し、ところかまわず捨てたりしないので、校内も道も清潔に保たれていてとても印象深かった。専門領域では、デジタル復元師という職業を知り、非常に特殊だと思った。今まで一度も聞いたことがなく、この職業に対して新たな認識を持った。

○今回の交流団で、私は沢山の経験をした。観光も学校もホームステイもそれぞれにとっても印象的だった。私が学校訪問で考えさせられたこと、ホームステイで感動したことを以下に記す。

学校交流で、私は数学と音楽とバドミントンの授業に参加することになった。その中のバドミントンの授業でのこと、チームのメンバーのレベルはかなり高かった。もし香港で、私たちがレベルの低い学生と対戦することになったら、きっと傲慢な態度をとり、相手にしたくないと思うだろう。でも日本のメンバーは私たちがバドミントンに不慣れだと知ると、気遣ってくれただけでなく辛抱強く相手をしてくれた。この経験で、私は彼らの謙虚な心を実感した。ホームステイでは、ホストファミリーが学生の受け入れを始めて4年目になる家庭で、毎年100人の学生を受け入れていると知った。だが、彼らの用意してくれたプランや交流の中で、冷めた感じは全く受けなかった。受け入れ4年目になるホストファミリーが、今も尚、私たちに対する熱い気持ちを持ち続けていることに感動を覚えた。

○学校を訪問した時、私は日本の高校生のクラブ活動や学校の教育制度について沢山の事を知った。例えば茶道や剣道、野球等だ。中でも一番忘れられないのは茶道だ。日本の茶道は中国から伝わったもので、礼儀をとっても重んじる。座り方にもお茶の飲み方にも全てに一連の規則がある。お茶を飲む時の正座はととても辛い、それでも茶道への強い興味の方が勝る。中国茶と言えば普通はプアール茶や鉄観音茶等だが、日本茶と言えば抹茶だ。私は茶道から日本人の礼を以て人をもてなす気高い品格を学んだ。茶を嗜む文化と、その食文化には切っても切れない関係がある。ホストファミリーの家では、食事の前にはいつも「いただきます」と言い、食べ終わると「ご馳走さまでした」と言っていた。そうしないと礼儀知らずと思われる。日本人の「礼」に対する重視は、中国伝統文化の中の「自己を抑えて礼を返す」という考え方に似ている。どちらも礼を以て私欲を抑える。「礼」を極めるとは、内心を見つめるところから始め、自己を「仁」の境地に到達させることだ。これは人の修養と品格形成を助け、今後の仕事や生活の全てに役立つだろう。

○今回の学校やホームステイ先での経験を経て、私は日本人の何事にも真面目に取り組み、心を込めて人をもてなす優れた特性を実感した。学校でも家庭でも、行く先々で温かいもてなしを受けた。学校ではわざわざ私たちを出迎えてくれた。資料や水など、必要な物は全て予めきちんと並べられ、席に着いたらすぐに学校の歴史や特色について閲覧できるよう準備されていた。それに比べて香港では、速度と効率を重視し成果を追求するあまり、人がどう感じるかをおろそかにし、他人の立場に立つて考えることができていない。日本の学校も家庭も、日本の一番素晴らしいところを私たちに見せようとしていて、その熱意や真心がしっかり伝わってきた。日本の学生も私たちとの交流を心から望んでいて、言葉は何の障害にもならないことを教えられた。相手の文化や言葉を学びたいという気持ちさえあれば、お互いの話は理解でき、最後には認め合い、受け入れ合い、あらゆるレッテルや誤解を消すことができ、バラバラになった関係を近づけ、共に協力して助け合い、問題を解決することができる。また、日本の学生はととても真面目にクラブ活動に取り組んでいる。毎日放課後になると、皆時間をやりくりして練習に励む。クラブ活動を一種の責任と興味を育てる場と捉えているようで、強い使命感と情熱を感じた。それに対して香港の学生は、クラブ活動を一種の自己の経歴を増やすためのもの、修了証書をもろうためのものと考えている。競争が激しく、利益を追求するだけの社会が、学生の価値観をも変え、クラブ活動本来の意味を忘れてしまっている。最後に、私は今回の視察で、日本政府が経済発展と文化保護のバランスを上手く保ち、高みに達しても基本を忘れていないと感じた。発展と繁栄を理由に歴史や文化の重要性を軽んじることなく、教育の場でも政治面でも優れた伝統を継承している。私は両者が共存可能で分離不可能なこと(両者の対立は必然ではないこと)を知った。

○今回の交流を通じ、身を以て日本文化とその独特な魅力を感じることができた。

まず学校について。2校との交流ではどちらも日本人の細やかな心遣いを感じた。2校とも事前準備がしっかりできていた。翔陽高校では、わざわざ国際交流系の学生を揃え、一緒に日本の高校生活を体験させてくれた。クラブ活動では、和太鼓部のパフォーマンスにとても感動した。——パフォーマー全員の動きが揃っていて、暗譜（楽譜は完璧に暗記）していて、視線も揺ぎ無くて……あの6分間で私たちは日本の高校生がクラブ活動に真剣に取り組み、自分の価値を見出しているのを感じた。香港の高校生活では、多くの場合おそらく皆自分の経歴を美化するためにやっている。だからクラブ活動にそれほど熱心ではない。日本の学生を見習うべきだと思った。

次にホームステイについて。ホストファミリーは自分たちの子供のように私たちに接してくれた。一緒にご飯を作り、掃除をし、口を漱いで床に就いた。まるで暫く日本にいて帰っていない我が家のようなだった。他にも、日本のホストファミリーは私たちに空を眺めに行くことを教えてくれた。香港の無数の灯りの下では、夜空に星が見られることは稀だ。香港の人も忙しい生活の中で空を見上げることを忘れてしまっている。折しも今回奈良を訪れたのは、ちょうど双子座流星群がピークの時だった。ホストファミリーは私たちの期待を知ると、二の句を言わず防寒用の衣類を準備してくれ、私たちと一緒にあぜ道でその時を待ち、星の方向や日本語名等を教えてくれた。久しぶりに空を仰いだ私たちは天空の魅力を再認識することができた。

○社会面では、日本は時代と共に発展してきただけでなく、伝統文化も保存してきた。清水寺や東大寺等を含め、私たちが見学したそれぞれの神社仏閣は、どこも古くからの文物を大切に保存していた。例えば仏像や伝統的な祈りの場所は、観光客にも日本の宗教の特色を感じさせてくれた。経済の発展を急ぐあまり、古くからの建築や文物を再建したり博物館に放置したりしない。香港とは違う。私たちは文物の所在地で、より一層それらの過去の輝きや風格を感じることができた。このことから、日本は物の根源を絶対に忘れないということが分かる。他には、日本は現代感で溢れている。社会環境やあらゆる物が現代的だ。例えばレジ、レジ係は小銭を探したりおつりを計算したりする必要がないので、代金の取り過ぎや不足という事態が減る。例えば交通、地下鉄のカバー率が高く、交通は発達していて便利だ。市民は気軽に目的地に行ける。つまり観光客でも簡単に利用できるということだ。そして圧巻なのは最先端トイレだ。ほぼ全ての場所の洋式トイレには、脱臭洗浄機能がついていて便座まで温かい。日本のデザインの細やかさと最新技術が反映されている。

学業面では、日本は学生の成績を重視するだけでなく、学生の才能や文化の伝承により重きを置いている。交流した二カ所の学校では、茶道部や剣道部、和太鼓部等の日本の伝統文化のクラブ活動が学生にとても人気だった。学校も色々な面で活動を支援していて、日本人が文化の伝承を重視していることが分かった。だから、学校で小さい時から習慣的に自国の文化に触れさせているのだ。他にも、日本では書道等も試験の範囲に入っていて、日本人が単に成績を良くするだけでなく、学生の潜在能力の発掘もしていることが分かった。

○学校訪問や参観を通じて、日本人の文化に対する態度や人や物事への接し方を知り、色々な面で見習いたいと思った。第一に、日本人は自国の文化を大切にし、積極的に保護や伝承に取り組み、根源を忘れない。例えば神社仏閣は、その環境を守りデジタル復元師が古代の文化を伝えている。彼らはその国民性から団結し、文物を愛護し一代一代伝承していくという意識を持っている。第二に、日本人はその土地の文化の意義が重大であることに賛同している。学校はこれらの活動を保存し、クラブ

活動の中で学生に学ばせている。例えば和太鼓や茶道、剣道等、クラブ活動は多種多様だ。第三に、日本の学生はとても真面目に物事に取り組む。決して投げやりにしないし、多くの時間を注いで学ぼうとする。例えば和太鼓部は、放課後毎日全神経を集中させて練習している。毎回全力で最高を目指す。香港と比べると、私たちは日本のように中国文化を大切にはしていない。いくつかの学校に広東劇や書道、将棋、茶道等のクラブがあるだけで、香港のクラブ活動は単一的だ。伝統文化を伝え、活動をより多彩で新鮮なものにし、学生が才能を発揮し伸ばしていけるようもっと支援してほしい。他にも、日本人は物事に真面目に取り組む。彼らの十分な準備と活動に参加する時の真剣な態度から知った。彼らは相手がどう感じるかに注意を払う。例えばそれぞれの席には資料と水が配られていて、学校は日本と香港の文化に関するゲームを実施し、各クラブは皆特色あるパフォーマンスを準備し、私たちが体験までできるよう道具の準備や指示がなされていた。日本の伝統文化と国民性が深く印象に残った。

◆澳門団

○日本に来て2日目に、私たちは「美しい色の中に生きてきた日本人」というセミナーを聴いた。講師の小林先生は、自身の知識と経験を結び付けたデジタル復元という技術で国宝級の着物を甦らせ、私たちに試着もさせてくれた。先生は自身の経験から「自分が何をしたいかをずっと忘れない」ことが大事だと教えてくれた。日本の科学技術に関するセミナーだったが、人生について学ぶセミナーでもあった。

その後、日本の高校生と交流する機会も沢山あった。まず歓迎会で明星学園高校の学生と交流した。彼らはとても気を遣って私たちと交流し、私たちがパフォーマンスをする時には熱心に応援してくれた。続いて小田原高校や登美ヶ丘高校では、学生たちは皆とても積極的に私たちと話をしてくれた。自分が心を開いて他人と交流しようとしさえすれば、言葉は大きな障害ではないと知った。学習面でのストレスは澳門に比べて軽く、学生はより多くの時間をクラブ活動や家族との交流、一緒に食事を作ったりすることに費やせる。中国も学生の学習面のストレスを軽減し、「あらゆる面を伸ばす」ことを重視し、学業成績だけを見ずに、学生が自己の潜在能力を見つけ、好きなことができるようにすべきだと思う。

ホームステイ体験では、Nさん宅にお世話になった。そこは木造の小さな一軒家で、家の中のテーブルや腰掛け、グラス、皿は全て家族が作った芸術作品だった。自分の趣味を生業として、日々大自然の懐の中で過ごせるとは、なんと素晴らしいことだろう！ホストファミリーとの会話の中で、人と相対する時一番大切なのは、相手を気遣い交流したいと願うことだと知った。このことは私の今後の生活や仕事にきっと役立つと思う。ホームステイ体験は今回の旅の中で一番深く印象に残った。私はNさん宅の楽しく温かい雰囲気を楽しんだ。

○今回の9日間の交流訪問では、いくつもの有名観光地や各地の高校を訪れた。遠く離れた土地には必ず異なる文化や風俗習慣がある。

(一) あらゆる面を伸ばすことを奨励：日本のクラブ活動は多彩だと聞いてはいたが、実際に訪問してみて、8割を超える学生が様々なクラブに参加していることを知った。澳門の教育は詰め込み方式だ。どちらにも良い点はあるが、もし両者の間で上手くバランスが取れば、学生は学術面と興味のあることを両立できると思う。

(二) 文化の融合性：日本は島国で単一民族なので、民族色が非常に濃く、伝統文化を保存しようとする意識がとても強い。中国は多民族の特性として、民族や文化の差が大きい。沿海地域は外国と

より密接な関係にあり、澳門に於ける中国とポルトガルの融合もその代表の一つだ。

(三) 話の仕方：日本人の物言いは穏やかで人を傷つけないが、誤解を招きやすい。中国人は問題の急所を突き、物言いは直接的だ。だがどちらが良い悪いということではなく、単に好みの問題に過ぎない。

全てが整った体験は、確実に多くの貴重な経験をもたらす。今回の訪問は、私に、また違う更に多面的な日本を見せてくれた。

○今回の交流活動を通じて、私は日本という「礼儀の国」への理解をより一層深めた。まずホームステイ体験が最も深く印象に残った。ホストファミリーの家で一緒に過ごした時間は1日もないたったの19時間ほどだったが、その短い時間の中でも、日本人の情熱や思いやりを十分に感じる事ができた。そして私は日中の違いに気付いた。中国には「食らうには語らず、寝ぬるには言わず」という言葉があるが、日本では食事の際には皆で会話をし、互いの理解をより深めていた。「父上様」は最後に私にもっと自分の感じたことを表現すると良い、そうすることではじめて、もっと他人と上手く交流できる、と教えてくれた。次に印象に残っている活動は学校交流だ。自分と近いか同じ年齢の日本の高校生と知り合えた。交流の中で、互いに自分の国について紹介し、それぞれの学校の違う点や授業の違いについて話し、とても興味深かった。別れの時、私たちはいつかもう一度会えるようにと願い、連絡を取り続けようとSNSの連絡先を交換した。その他に、京都鉄道博物館もとてもよかった。澳門には地下鉄も鉄道もないので、とても新鮮だった。博物館には沢山の種類の列車が展示され、日本の鉄道の進化を物語っていて、日本の歴史についても少しだけ知ることができた。総じて、今回の訪日活動では得る物がとても多かった。澳門に帰ったらホストファミリーの家で学んだ生活の知識を自分の日常生活に活かしたいと思う。

○今回の活動で、私たちは神奈川県立小田原高校と奈良県立登美ヶ丘高校へ行き、一泊のホームステイも体験した。まず印象的だったのは、日本の清潔で整った都市環境だ。東京でも渋滞はほとんどなく、道で大声を上げて騒いでいる人もいない。たとえ数歩で渡れる道でも、誰も赤信号で渡ったりしない。私たちも見習うべきだと思った。

澳門の学生と明らかに違うのは、日本の学生はクラブ活動に熱心だということだ。澳門でも学生の様々な面を伸ばすべきだとよく口にはしているが、学生の情熱や参加率は日本に比べてやはり少し劣っている。学業の大変さは、自身の潜在能力を発掘する努力を怠ることの口実には決してならない。日本の学生にも憧れの大学はある。つまり、心をしっかり持って努力を続けさえすれば、できないことは何もないのだ。

田舎では、賑やかで生活のテンポが速い都市よりも、生活とは何かを体感できた。前日まで楽しんでいた都市の栄華や富貴、賑わい。田舎に来るとそれとは別の味わいがある。これまでに何度か体験したホームステイでは、自分が特別な客になったような感じがしただけだった。それが今回は違っていた。私たちはKさんの家にお世話になったが、自分たちがまるで何年も家を離れていた子供であるかのように感じた。家の中の事はよく分からなかったが、私たちができるようになるまで何度もやらせてくれた。正に中国の古いことわざの「人に授けるに魚を以てするは、漁を以てするに如かず」だ。そうしてわだかまりは消え、温かい感情が幾重にも重なっていった。ホームステイ先は田舎だったが、家の中の設備はほとんど全て揃っていて、想像していたような都市との大きな格差はなかった。結局、格差が拡大すれば、農民は二度と田畑を耕さなくなり、都市も疲れるだけで割に合わなくなる。もしかしたら、これこそが日本人のこの上ない保障政策なのかもしれない。

文化に良いも悪いもない。学び続けそれを自分に合うように変えてこそ、私たちは今回の旅を無駄にせず、より美しい地球を創造できるのだ。

5. 受け入れ側の感想

◆日本高校生

○香港の生徒さんたちはみんな積極的に話しかけてくれて、楽しく会話ができました。香港について、事前にもっと知っておけばよかったと思いました。また、今後も香港について知りたいと思いました。

○普段、直接外国の人と関わる機会を持ってないので、貴重な体験ができました。英語のコミュニケーション力を試すことができ良かったです。また、日本について外から見た感想を聞くことができたのは興味深かったです。

○すごく楽しい時間を過ごすことができました。香港の生徒のみなさんが来る前はうまく伝わるかどうか不安だったし、最初はとても緊張していました。でも、自己紹介をやり始めた頃から緊張がほぐれてとても楽しかったです。伝えたいことが伝わらなくて、何て言ったら伝わるかグループのみんなで色々な表現をしたら「OK, OK!」とすごく笑顔で言ってくれて嬉しかったです。伝えたい物の名前が英語でわからなくても、「伝えたい」「聞きたい」「わかりたい」と思う気持ちが大切だと改めて感じました。伝えなかったら色々な表現をするし、わかりたかったら一所懸命聞こうとするので、すごくいいなと思いました。外国の方とあんなにたくさん話す機会はほとんどないと思うので、すごくいい経験だったなと思います。私たちが香港・マカオに行ったときも、色々な表現を使って伝えたいと思います。とても楽しかったです。

○先日行われた香港の生徒との国際交流は、私たちにとってとても楽しく、充実した時間になりました。広東語を教えて頂いたり、その教えてもらった広東語を使ってお礼を言ったり、初めましてと言ったり、より良い交流を私たち自身で作り上げられたと思います。今回の交流を通して、言語が上手く伝わらなくても、笑いかけてくれたりし、伝わらないことの不安などよりも楽しさや喜びを感じることができました。文化の違いを知ることができました。例えば髪を結ばなければいけない、お昼は外食してもいいなど、校則の違いなどを聞くことができました。この交流を通して文化の違い、交流の大切さ、言語の違いなどたくさんのことを学ぶことができました。もっと勉強をして、他国の文化や言語を知り、色々な国の人々とコミュニケーションをとってみたいと思いました。

○このプロジェクトを通して、私はたくさんの友達ができました。始めのうちはお互い少し遠慮がちに話していましたが、香港クイズを一緒に解いたり、お昼を共にすることで、一気に仲良くなれた気がします。私の単語を並べたようなよく分からない英語も一生懸命に聞いてくれて、とても嬉しかったです。今回の海外の方との交流は今までの海外の方との交流よりも「言葉の壁」が薄かった気がします。それは、私の英語が少し上達したのもあるかもしれませんが、それ以上に文法や単語が分からなくても、話を伝えようと頑張ったことにあると思います。会話をしている中で明確に理解できなかったり、スムーズに会話のキャッチボールができないのはとても残念に思いましたが、英語をもっと学ぼうと思えるきっかけになりました。最後の別れの時にはたくさんの香港のおみやげをもらい、「また会おう。次は私が香港へ会いに行く」と約束しました。その時までには私は英語と中国語、彼女達は日本語と英語がもっと上手になって、もっと深い話をできるようにしよう約束しました。私は近い

将来のいつの日かこの約束を果たすために、今必死に勉強をして、香港に会いに行きます。

〇すごく楽しかったです。マカオの高校生と英語を使って会話するのはちょっと緊張しました。前から別の国の人と交流してみたいなあと思っていたので一つ夢がかないました。でも、あまり上手に英語が使えず、話したいことがもっとあったけれど伝えられませんでした。また相手が話しかけてくても、すぐに意味がわからず、返事ができないこともありました。もっと気軽にコミュニケーションがとれるように英語をがんばりたいと思いました。国が違って、同じ年代の子たちと仲良くなれて嬉しかったです。またこういう機会があったら参加してみたいです。

〇今回はこのように澳門の高校生との交流の機会を頂き、有難うございました。私の率直な感想は、外国の方と話をすることに、抵抗がなくなって驚いている、というものです。今までなら、外国の方と話をする機会なんてめったになかったし、もしあったとしても、自分の言いたいことが伝わるか不安でおどおどしてしまっていました。しかし今日、初めて外国の方とこんなに交流をすることができて、自分にとって視野を広げる大きな1つの良い機会になりました。同じ年代の高校生ということもあり、より打ち解けやすく、私の中の厚かった壁を澳門のみなさんが壊してくれました。また、英語での素晴らしいプレゼンも見ることができて、良いことをたくさん吸収できましたし、良い刺激になりました。とてもとても楽しい時間でした。ありがとうございました。

6. 参加者の対外発信

12月12日／高校生／Facebook	12月14日／高校生／Instagram
<p data-bbox="220 1144 778 1279">12月12號時我最深刻的是松戶國際高中的圖書館，他們的圖書館內有好多不同類的書，加上他們的推介書叢的造形很像書店的推介樣子，這個圖書館真有吸引力！</p> 	
<p data-bbox="204 1906 467 1935">学校訪問についての発信</p> <p data-bbox="204 1955 802 2123">12月12日、最も印象に残ったのは、松戸国際高校の図書館だ。ここにはとても多くの種類の本があり、その上おすすめの本が並べられていて、本屋さんようだった。本当に魅力的だ！</p>	<p data-bbox="831 1906 1145 1935">ホームステイについての発信</p>

<p>12月16日／高校生／Facebook</p> <p>14 Dec at 23:05 · 🌐</p> <p>JENESYS 2017 前幾天去了淺草寺，原來真的很多人。店裏的人都很好，他們很會關照人，在買東西的時候除了有禮貌外，在我們買東西的時候會很精心地把我們的禮物包好。真的很欣賞他們。</p>  <p>日本理解についての発信</p> <p>何日か前に浅草寺に行ったら、本当に人が多かった。店員さんがいい人で、気遣いもあり、買い物をしたときに丁寧に接してくれただけでなく、お土産をととてもきれいに包んでくれた。本当にすばらしい。</p>	<p>12月16日／高校生／Twitter</p> <p>今天的京都環保中心之遊，令到我明白到環保的重要性，還有有什麼方法可以推行環保，如雨水收集，可再生能源發電呢！回到香港後，我一定會留意身邊是否有這種設施，以便觀察香港的環保狀況與日本到底有何不同。 #HKJENESYS2017GP1</p>  <p>17年12月16日 8:26</p> <p>環境保護についての発信</p> <p>今日の京エコロジーセンターの見学で、環境保護の重要性と、どのような方法で保護活動を行えるかがわかった。雨水を集めて発電できるなんて！香港に帰ったら、周辺にこのような施設がないか気にかけて、香港と日本の環境保護の状況にどのような違いがあるか考察したい。</p>
<p>12月16日／高校生／WeChat</p> <p>鐵道博物館？ 好靚超靚好中意 😊 京都 🍵🍵 抹茶不錯喝 跑馬看花咁去清水寺 櫻鈴無曬QQ 今晚住溫泉旅館 🍵 超認真咁着浴衣 😊 結果都係扯開坐 #日本Day6</p>  <p>2017年12月16日 20:37 刪除</p>	<p>12月17日／高校生／WeChat</p> <p>🇯🇵 日本交流小分享 🇯🇵 🗼 住在東京鐵塔旁，感覺「一覽眾山小」 🏞️ 日本晴空塔體驗，高處離遠望富士山 🎭 與日本同學表演才藝節目，日本女生好熱情，不斷找話題 🎓 體驗校園生活，數學堂&吹奏樂，氣氛好正！ 🏠 入住Homestay，寄宿家庭好溫馨，彈左兩小時傳統五弦琴，三餐都是飯，食量巨增 🦌 奈良公園內的鹿群，鼓起好大的勇氣才碰下去 🌊 溫泉旅館的戶外溫泉體驗，是美的，2度的風感覺好舒服</p>  <p>2017年12月17日 23:15 刪除</p>

<p>日本理解についての発信</p> <p>鉄道博物館、すごくすごくきれいで、大好き！</p> <p>京都は抹茶がおいしかった。</p> <p>駆け足で清水寺を見学。「桜鈴」は売り切れ…。</p> <p>今晚は温泉旅館に宿泊。</p> <p>真面目に浴衣を着たけれど、結局あぐらをかいて座ってしまった。</p>	<p>訪日活動全般についての発信</p> <p>日本での交流についてのシェア。</p> <p>東京タワーの近くに泊まって、まるで「衆山の小なるを一覧す」（杜甫の詩）というような気持ち。</p> <p>スカイツリーに登ると、遠くに富士山が見えた。</p> <p>日本高校生のパフォーマンス、女子高校生が親切で、話題が途切れなかった。</p> <p>学校生活の体験、授業も吹奏楽も、最高の雰囲気！</p> <p>ホームステイ、ホストファミリーが優しかった。大正琴を2時間弾いた。三食とも白米で、たくさん食べた。</p> <p>奈良公園の鹿の群れ、思い切って勇気を出して触ってみた。</p> <p>温泉旅館での露天風呂、きれいだった。2℃の冷たい風も心地いい。</p>
---	---

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p><香港団></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のリサイクルシステムは優良で、世界でも認められており、また環境問題はますます人々の関心を集めている。私は学校の生徒会長として、学生たちに今回の交流プログラムを紹介すると同時に、校内での環境保護活動の実施を呼びかけようと思う。例えば紙くずやプラスチックの回収箱の活用、ゴミの分別処理やリサイクルなどを行い、無駄を減らしたい。 ・学校の朝礼で今回の交流経験を皆にシェアする。活動中のさまざまなエピソードをテーマに、日中の文化に違いがあることや、その違いがどのようなものかを共有し、さらに、日本文化の良い部分を取り入れるよう勧めたい。例えば、日本人は何でも「他人のため」または「他人に迷惑をかけない」という観点から始めるということ。そうすれば、香港の人も何かをするとき、自分のことだけでなく他人の立場になって考え 	<p><澳門団></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き日本語を学び、試験も受ける。家族と日本留学について相談する。剣道の稽古をしている場所を探し参加する。日本の学生と連絡を取り続け、お互いの学校の新しい情報を交換する。 ・学校の週礼で体験を共有する：中等部と高等部の学生に向けて発表を行い、皆にも日本に対する興味を高め、日本文化についての認識を深めてもらいたい。澳門にも、ファッションやグルメ、アニメ等、日本文化に興味を持っている人は多くいる。自分の経験を皆にシェアすることで、皆の日本への愛が高まると信じている。特に、中三、高一の学生は、私の発表に興味を持ち、来年、積極的に訪日活動に参加してくれるのではないと思う。 ・歴史への認識を深める：周りに伝える前に、まず自分で日本のことをよく知らなければならないと思う。

<p>るようになり、より調和のとれた社会になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人のすばらしい国民性や、先端技術、伝統文化、社会や礼節について、クラスメイトや家族にシェアしたい。特にデジタル復元の技術は、科学技術と歴史が融合した例である。科学技術をうまく使って歴史を守っている点は、香港も学ぶべきである。 ・より多くの日本文化体験活動に参加する。例えば私が通っている日本語学校主催の活動等を通して、さらに深く日本文化を理解したい。また、日本語の新聞を読む習慣をつけ、自身の日本語レベルを上げるだけでなく、日本の時事問題を知り、日本の発展を注視し追いかけてたい。 ・香港で行われる日本関連の活動に、友人を誘って積極的に参加する。友人たちにも、日本はアニメを作るだけでなく、多元化している国だということをよく知ってもらいたい。 	<p>訪日中に通訳さんが紹介してくれた内容を記録していたので、それを基にさらに資料を探し、さまざまな文化・風俗の起源を知り、自分も他の人も、より深く日本のことを知り、覚えられるようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百聞は一見にしかず。私たちはたくさんの動画や写真を撮ったが、これは周りにシェアするための重要な資料でもある。これを使って、周りの友人、クラスメイトや親戚等に、よりよく、よりわかりやすく、日本の状況を伝え、わかってもらいたい。例えば、ゴミの回収計画や、鉄道・建築、教育者が防災訓練を重視していること、学生が部活動に熱中していることなどを伝え、友人の訪日への興味や意欲を高めたい。
--	---